

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

防災・減災対策調査特別委員会記録

日	令和8年2月25日（水）（第1回定例会）			
時	午前10時0分 開議（ 休 憩 な し ） 午前10時31分 散会			
場 所	第2委員会室			
出席委員	小坂 さとみ	向 後 保 雄	茂 呂 一 弘	野 島 友 介
	石 川 弘	渡 辺 忍	岩 井 雅 夫	麻 生 紀 雄
	佐々木 友 樹	森 山 和 博	宇留間 又衛門	
欠席委員	な し			
担当書記	市 場 涼 介 伊 藤 祐 貴			
説 明 員				
調 査 案 件				
協 議 案 件	今期委員会の総括について 委員長報告について			
そ の 他				
委 員 長 小 坂 さ と み				

午前10時0分開議

○委員長（小坂さとみ君） おはようございます。

ただいまから防災・減災対策調査特別委員会を開きます。

本日は、お手元に配付の進め方のおり、今期委員会の調査活動に関わる総括と委員長報告について御協議願いたいと存じます。

今期委員会の総括について

○委員長（小坂さとみ君） まず、今期委員会の総括ですが、今年度は、避難所運営の実効性の向上についてを調査テーマに挙げ、本市の現状や課題等に関する説明を市当局から聴取したほか、市外視察では、マンションにおける防災の取組について、また、大阪市と神戸市の先進事例について調査してきたところです。

本日は、避難所運営の実効性の向上に向けて、1年の調査活動を踏まえた所感や、市当局がより一層取り組むべき事項などについて各委員から意見を伺い、今後作成する調査報告書や委員長報告に取りまとめた上で盛り込んでいきたいと考えております。

それでは、今期の調査活動を踏まえ、所感や御意見がありましたら、御発言をお願いいたします。野島委員。

○委員（野島友介君） 市内視察先のブラウシアというところで、防災リーダーを全世帯輪番制としている点がやはり最も注目すべき点かなと。これによって、この防災が一部の有志による活動から、そこにお住まいの全住民の我が事へと昇華されていたなと思いました。

あと、この管理組合がこのみなし自治会として機能して、平時のコミュニティー形成というのが有事の際の共助の土台となっているなと思いましたので、この本市での多くのマンション、UR団地等においても非常に示唆に富むモデルだったなと思っております。

あと大阪市の防災強化マンション認定制度、これはハード面だけじゃなくて、ソフト面もこの評価の柱に据えているという点、これもやはり本市においても、ソフト重視の認定制度というのを創設すべき点ではないかなと感じたところでございます。

あとブラウシアでやっているような実技とか体験型の訓練とか、そういうようなところも好事例を具体的に盛り込んだりとか、あとマンションの認定制度、こちらでソフト面での資産価値の向上につながるような、千葉市版のこのマンション認定制度を積極的に検討すべきではないかなと思いました。

こういったところを市で行って行ってほしいなと思いました。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。

ほかに御意見等ありますか。茂呂委員。

○委員（茂呂一弘君） 私は、神戸市で視察した災害時の物資供給、これに非常に感銘を受けました。

本市でもいろいろな企業・団体と災害時の協定結んでおります。これが実際、有事の際にどれだけしっかり機能するのかということを検証する意味でも、この神戸市で実際やったような災害時の物資供給に関わる訓練、やはり本市でも実際に取り組んでみるべきじゃないかと思

ました。

やはりやってみて分かることとか、訓練して分かること、また、例えばいろいろな輸送経路も含めた課題とかも浮き彫りにされると思いますので、ぜひこれは前向きに取り組むべきと考えた次第です。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。

そのほか御意見ありませんか。宇留間委員。

○委員（宇留間又衛門君） 神戸市に行ったときに、港湾について私質問したけれども、千葉市は港湾がないんだよ。あそこは物流倉庫がいっぱいあったじゃん。やはり私たちはね、この港湾を県からもらうような算段をして、自分たちの倉庫があれば、海からすぐ直接入れるんですよ。神戸、それから、大阪、ほとんど政令市は港湾を持っているんだよ。だから、あそこに物流倉庫をいっぱい造って。いざというときで言ったけれども、千葉市はそこがちょっと。

あそこのサッカー場だけだと思うんだよ、急に来てもやれるのはさ。神戸市とかほかの政令市は、港湾を持っていますので、十分に港湾を活用できるんですよ。船からどんどん物資を持ってくるし、いろんなことができますんで。千葉は、そういう点で、船を泊めるっていったって県の許可を得なきゃならない。

そういうことですから、うちのほうから何人か県議会議員が行っているから、あの県議会議員にぜひとも港湾を政令市のほうに持ってきていただきたいと。そういう発言をしてもらって、やはりそういう防災の倉庫いっぱい造って対応できるようなことをしないと。やっぱり訓練もそうですよ。うちの町会だっていつも来る人は決まっているの。駄目だよって言っても、やっぱり来ないから。いつ災害があってもいいように、やっぱり町会としてもやっていかなきゃならないという、遠いところでいろいろな災害が起きましたよ。

これ絶対災害来ますからね。そういうことで、いざ来たときにパニックにならないように、やはり私たちは準備を市民に教えておくようにしなければなりませんのでね。そういうことで、やっぱり倉庫だとかいろんなところ、どこにあるよということを教えておかないと。

もう一つは防災無線もそうですよ。防災無線もあらゆるところにつくっておかないと。この間、千葉市でやったときには、津波を想定したから。この海岸線にずっと防災無線がありましたけれども、山手はあのおとき全然なかったから。そういうことで、これ来ますから、あと30年たたなくて、今日来るかもしれないんだ。やっぱり市民にいち早く教える体制を万全に整えていただければと私は思いますので。港湾だけはぜひとも千葉市に持ってくるように。

千葉市に県議会議員が14人いるんだ。何やっているんだよ、14人。要らないよ、あんなの。14人いて防災のことを何にもやらないでさ。

そういうことで、県議会議員、今回、千葉市から川村さんと小川さんが行ったんだから。鷺見さんもいるわ。3人でそういう発言をしてね、千葉市にやっていただきたいというふうに発言して。今日小川さんがやるというから、千葉市と県の対応って言っているから、そういうことも言うのかなとも思うけれどもさ。

そういうことで、防災のほうはしっかりとやらなきゃなりませんので、これからまた来期の人たちにも十分に教えていただければと思います。よろしくお願いします。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。

そのほか御意見ございませんか。森山委員。

○委員（森山和博君） 茂呂委員のほうからありました実効性を高めるために物資を移送することというのは、そもそも民間の方と災害の防災・減災の連携協定等を組まれていて、それを実際に動くかどうかを確認なさったというふうに捉えています。

千葉市もたくさん、民間さんとか各分野の連携協定、防災に関する連携協定をなさっているの、年1回の避難訓練のところに集まってくださるだけじゃなく、具体的にその分野の実態のそういう本当に具体的な訓練をなさってもいいのかなというのが、物資を輸送する実働の訓練をなさっているのは非常に参考になりました。

もう一個は、神戸市さんですら、世代を超えて、その災害の避難の重要性とかをちゃんと伝えていかなければいけないために、防災ジュニアチームの活動とかを学ばせていただきましたけれども、やっぱりちょっと防災訓練の大切さを伝えていくための仕組みは、千葉市も持たないといけないのかなというふうに思います。

残念ながら、自治会だけの防災訓練だけではちょっと先細り感があって、先日も自治会をおやめに、解散されて、でも、これはマンションだったんですけども、管理組合で、それこそみなし自治会で、防災の部分だけは引き継ぎたいというような、今の時代ならではの課題もあるのかなというふうに思いますので、市として、そういう防災訓練の継承の在り方をちょっと検討なさってもいいのかなと感じたところです。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。岩井委員。

○委員（岩井雅夫君） 防災・減災ということであるんではありますけれども、まずはやっぱり目標としている自助、共助、公助、この3つがそれぞれ分担してやらなければいけないんじゃないかなって思うんですね。

これ総合的には、見れば、防災・減災に関わってくることなんですけれども、ただ、自主的にやる部分というのは、例えば耐震の家具が倒れないようなこともできる、あるいは備蓄をして、3日間ぐらいの食料を持っている。

実際、この間マンションの防災であるのは、多分、今耐震がマンション強度ですから、倒れることはないと思うんですね。ただ、そこにいろいろなものが落ちこちたり、あるいは火災が起きたりというような部分が、やはり被害に遭ったり、あるいは災害に遭ったり、あるいは煙を吸っちゃって亡くなるというような形ではないかなと思うんですね。

また、地域によっては、私が住んでいる一戸建ての農村地帯は、周りにはあまり家と家の間が空いているので、例えば火災になっても、多分そんなに広がらないかなと。近隣になっている住宅は、飛び火で広がってってしまうというような部分があって、やっぱり環境もそれを知ってですね、避難訓練を地域で行うことが一つの共助の役割じゃないかなと思うんですね。

ですので、まずは、自分の命を守るのに、自助が一番大切じゃないかなというのを改めて感じております。

共助の場合には、避難所運営委員会とか、そういったところで、やはり地域で訓練をする。

何度か訓練しないと、やはりいざというときには動けないのかなというようにところがあります。

3つ目の公助ですけれども、先ほど宇留間委員からもありましたけれども、公助でどれだけ防災の施設を確保できるか、例えば港湾だけじゃないんですけれども、そこにやっぱり備蓄倉庫をどういうふうに、あるいはもっと言えばシェルター等を準備して、そこに逃げ込むところをつくったりというようなところが必要ではないかなと思います。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。石川委員。

○委員（石川 弘君） 私もいろいろ防災訓練だとかそういうのを見てきて、やはり実際の行っている防災訓練とか、あと町内会の行っている防災訓練なんかで、結構温度差が大きいんですね。それぞれのやっている訓練が温度差が非常にあったりして、やはりいろいろな訓練に参加して、初めてよその新しいものを取り入れられるようになるというので、やはりそれぞれの皆さんが訓練に積極的に参加する、これが一番大事なのかなというふうに思っています。

もちろん避難所運営委員会にしても、やはり場所場所によって温度差がかなりあるんです。ですから、やっぱり時々というか、年に何回かの訓練でも、やはりまた違った人たちとの訓練もまた交えてやると、また違ったことがプラスになることが多いと思いますので、さっき宇留間委員がおっしゃっていたように、今来ても、災害が今来てもおかしくない状態なので、やはり積極的に皆さんが防災に関して、もっと認識を持って高めて、それで各種の訓練に積極的に参加するというのが一番の方法かなと思います。それで自分たちそれぞれのことを身につけていく。

それから、あと訓練の中にも、それこそ避難所のほうと同じように食料とか、食料の確保とか、そういうのも今ハイゼックスというビニール袋で御飯を炊けたりとか、いろんな方法もあるので、あといろんな簡単な食料品もあるので、お湯を入れたり水だけ入れたりすれば御飯ができるというのもあるので、やはり各種防災訓練、避難所運営委員会の訓練に参加して、それぞれの新しいもの、新しいものをどんどん取り入れて、いざ大きな災害が来たときに対応できるように、そして自助から今度共助に移るときには、もう皆さんが協力してできるような形を取られれば、一番ベストかなというふうに思います。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。

ほかに。渡辺委員。

○委員（渡辺 忍君） この視察を通して、やはり先進的な事例見れたのはありがたかったなと思います。

1つ目が、もう出ていますけれども、配送の部分ですね、物資の配送の部分で、やっぱり連携協定があるだけでは実際動けるかどうか分からないので、神戸市さんのように、さらに費用もかけず通常の備品を配備する、そのローリングストックの考え方で、通常の5年サイクルだったりとか3年、入れ替えるタイミングを狙ってやったということもすごく効果的だなというふうに思っております。

また、女性のリーダーをどのように現場で生かしていくか、千葉も、もちろん防災リーダーの中に女性も取られていて、受講されているけれども、自治会の中での役割は特にないという方もやはり多くて、それが地域の自治会というか地縁団体さん、自主防災組織やら避難所運営も全部そうですけれども、女性が結局、手を動かす人は女性がいてもなかなか表に出てこなく

て、引率してまでやれないとか、その自治会の在り方とも連動してきてしまうので、すごく難しい問題だとは思いますが、特に防災に関しては、先ほど森山委員も言っていましたけれども、別の、手を挙げる人たちをきちんと捉えて、地域ごとに組織ありきではなく、本当にやりたいという防災の訓練であれば、自治会の予算をその団体さんに配分できるような仕組みとか、何かうまく伝えられないんですけども、それがやっぱりこの資格というものがあればということであれば、この資格を取った人が企画したものに対しては、地域の自治会がむしろ協力してやる体制とか、新たなこの女性の地域での役割みたいなものは、しっかり今後考えていかななくてはいけないというふうに改めて今回のことで思いました。

最後に、マンション防災、本当すごく先進的で、これは先進事例としてぜひ展開していきたいと思う内容でしたし、もちろんこんなにうまくいくとは一番、日頃からこの防災だけじゃなくて、日頃から活躍が素晴らしいメンバーがやられているということで、なかなか難しさはあるものの、1マンションから2つ、各他地域へ広げるために、私たちが何かできるかはちょっと考えていきたいなと思っております。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 私のやっぱり感じていることは、やっぱり若年層の防災意識をどうつくるかということがやっぱり大事なかなと思っておりまして、ただ、学校教育の中でそれを入れ込むってなると、本当に厳しい部分があるので、いかにしてふだんからの地域でのつながりをつくっていくかというのが、大きな私は課題だと思っております。

いざとなったら、若年層であっても、高齢者であっても、助け合わなきゃいけないというところは、神戸市さんでも過去の震災の経験からも、そういった状況があるということも伺ってきましたし、いかにやっぱり、繰り返しなっちゃうんですけども、防災意識をこの地域で、私たちはこの地域を守っていくんだ、連携していくんだ、協力していくんだということを本当に進めていかないと、共助の部分での避難所に行けば助けてもらえるとか、そういうことじゃなくて、やっぱり避難所に行って自分が何ができるかというような、やっぱりそういうものをやっぱり醸成していくことが必要かなと思っています。

あと公助の部分では、今議会でも補正予算など組まれて、簡易ベッドですかね、整備されるということもありますけれども、行政側はこれが必要だということで整備していくわけですが、実際にそれを使う側は、じゃ、来ました、じゃ、やってみましょうみたいな感じで、行政から与えられるものを訓練するというような感じになっているので、じゃ、この地域ではどういう、やっぱりそういった資機材が必要なのかということも含めて、やっぱり自分たちで何か考えていかなきゃいけないという、やっぱりそういった取組を促していくような、そういうある意味、お金をかけずにやっていく部分でもあると思うので、そこの意識も高めていくということも、この千葉市では必要なんじゃないかなと思っています。

大きな災害ってないじゃないですか。以前台風はありましたけれども、地震はまだ来ていないので、大きな地震って東日本のときには来ましたが、だとしても、5強、5弱というところなので、これは6弱とか6強になったときの被害の大きさというのはやっぱり計り知れないと思いますので、そういう部分の意識づけというのをしていかなきゃいけないかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。麻生委員。

○委員（麻生紀雄君） 今回テーマが、避難所運営の実効性の向上についてという、なかなか難しいテーマだったなと思っております。

この中のメンバーでも、避難所委員会の委員長であったり、自主防災会組織の会長であったり、いろんな方が、この委員にもいらっしゃると思いますけれども、日頃からこの体制を維持運営していく難しさを感じている中で、今回委員会の中でのテーマ設定だったと思いますけれども、その中でもやっぱり被災地でもあります神戸市さんでも、体制維持すること、すごく苦慮しているお話も聞かせていただきました。

あと皆さんのいろんな意見もありましたけれども、私一番印象に残っているのは、神戸市さんのほうで消防の職員の方との連携、これがすごく印象に残っておりまして、どちらかというとながらは自主防災会とか避難所委員会から、こんな訓練と一緒にやっていただけませんかっお願いしているようなイメージですけれども、神戸市さんのほうでは消防の担当者がいて、その方たちが積極的に地域に入り込んで、こういうふうと一緒にやりましょうとか、若い世代と一緒にやりましょうとか言っている話がとても印象に残っておりますので、そういったことができれば、我々もまだ被災、2011年に東日本大震災で被災しておりますけれども、それ以降にできた組織が多いものですから、やっぱりそういった、それまでには消防さんとのもっと連携を深めて、地域の体制をつくっていったらということを私は感じておりました。

以上でございます。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。

皆様それぞれ発言をされましたかね。副委員長、どうぞ。

○副委員長（向後保雄君） せっかくですから、副委員長としてちょっと言わせてもらいます。

まず、今まで皆さんお話があったことと重なりますけれども、まず今回の課題である実効性の向上について、避難所運営委員会ですよね。千葉市は6区、100%全て結成はできています。

ところが、この間の行ったブラウシアだとか、あと黒砂台だとか、非常に活発にやっている、先進的かというと、参考になるところが非常にあると思うんですけども、それをもっと広く皆さんに知ってもらうことが大事だと思うし、それから、なかなか活動ができない状況がどこにあるのかということも分析しなきゃいけないので、意識づけが非常に大事だということをまず申し上げたいと思いますけれども、自分たちのまち、自分たちで守る、そして、共助である避難所委員会というのは、自助・共助・公助のうちの一つでありますので、これをしっかりと活動できるような体制を整えていくというのが大事かなと思います。

本当に活発なところはありますし、ただ、ほとんど動かれていないところもあるので、そこをどうやって意識づけしていくかということが課題なのかなと思いました。

3日間、72時間をまず、自分でまずは自助が大事ですし、備蓄品だとか、簡易トイレだとか、そういったものはきちっとそろえなきゃいけないということを住民に知ってもらうこと、それから、その後、公助は避難所委員会とともに、共助・公助が72時間後にやっとなるような状態だと思いますので、そういったことを住民にしっかりと意識づけをしていくことが、我々委員会としても大事なかなと思いました。

以上でございます。

○委員長（小坂さとみ君） それぞれの皆様からの熱い御意見ありがとうございました。

私が感じたのは、千葉市は各組織、運営委員会もありますし、様々なところと提携をしているものの、あるだけでは意味がなくて、やっぱり実際に稼働ができるということが重要ですので、ふだんの訓練が必要だということについては、本当にそのとおりでと思います。

それと、麻生委員からありました消防と連携しているという点については、私も今回消防団、地域の消防団に参加して思ったのは、地域の消防団って決して火消しをすることはまずないんですね。むしろ地域とつながっているからこそ、その後の地域との対策というのは非常に必要なかなということの日頃から思っている中で、もっとこの消防団が地域とよりつながって対策ができる仕組みというのは必要かなというふうに、私も思っているところでございます。

いずれにしても、皆様からの様々な御意見を参考にしまして、今期委員会の調査報告書を作成したいと思います。

なお、この調査報告書につきましては、各委員の閲覧が終了した後に、議長へ報告するとともに、当局へ参考送付させていただきますので、御了承をお願いいたします。

以上で委員会の総括を終了といたします。ありがとうございました。

委員長報告について

○委員長（小坂さとみ君） 委員長報告につきまして、最後に御協議を願います。

本日もちまして、特段の事情がない限り、今期の委員会活動は終了とします。

この1年間の調査内容について、第2回定例会にて報告をさせていただきたいと存じますが、案文の作成につきましては、正副委員長に御一任願いたいと存じます。

なお、委員長報告の案文の供覧につきましては、後日、ラインワークス等により御覧いただきまして、その後、特に御意見がなければ御了承いただいたものとして決定をしたいと存じますが、この流れでよろしいでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。

それでは、委員長報告の取扱いにつきましては、以上のとおりにいたします。

最後に、委員会を終了するに当たりまして、私から御挨拶をさせていただきます。

この1年間どうもありがとうございました。

今回のテーマは、実効性ある避難所運営委員ということで、ある意味非常に難しいテーマかなと思いましたが、それぞれの皆様が非常に意識高く御提案いただいたという点で、私自身も特に避難所運営委員会というのは、私たちがやらなければいけないという点で、特に女性と子供がこれから活躍する時代かなということで、視察先に関しては、そのテーマで選ばせていただきました。

各全国的にもその意識は高いものの、実際に活動している自治体はまだまだ少ないという状況の中で、今回視察をしたところを本当に参考にして、千葉市としても動いていかなければならないというふうに思っています。

ただ、皆さんも御発言されたとおり、まずは私たち自助が一番ですので、市民の代表である私たちとしては、市民の皆様とともに活動できる体制づくりを、各地それぞれの事情が異なりますので、リーダーシップを持って取り組んでいただくということと、私たち議員同士がまた

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

連携をし合って、必要な対策につなげていくということを心がけていきたいと思えます。

本当にこの1年間、皆様のお支えがあって運営できました。ありがとうございます。そして、事務局の皆様にも本当にありがとうございました。

以上をもって終了とさせていただきます。（拍手）

では、以上をもって終了といたします。ありがとうございました。

午前10時31分閉会